

令和3年6月25日(金)

13:00~15:30

参加:片桐・中富

令和3年度都道府県訪問看護ステーション連絡協議会

交流会・ブロック会議 ZOOM による WEB 会議 参加報告

13:00~13:10

1. 開会の挨拶 全国訪問看護事業協会会長 尾崎 新平氏

13:10~13:40

2. 報告事項等 全国訪問看護事業協会常務理事 阿部智子氏

1) 要望書の提出

- ・令和4年度診療報酬改定要望書(案)

- ①医療機関等と訪問看護事業所の連携により、在宅療養者を支援する切れ目のない体制作りを評価されたい
 - ・退院日の訪問について、訪問回数・訪問時間帯を勘案した評価をすること
- ②医療ニーズの高い対象者が、本人の望む場所での療養生活が可能になるよう、訪問看護のさらなる充実を図られたい
 - ・特別訪問看護指示書が月2回まで交付可能な対象者の状態として、がん以外のターミナル期および難治性潰瘍を追加すること
 - ・特別訪問看護指潰瘍を算定可能な状態として、真皮を超える褥瘡以外に難治性潰瘍を追加すること
 - ・長時間訪問看護の制限を緩和し、特別管理の状態の者および特別訪問看護指示書に係る指定訪問看護を受けている者についても週3回算定可能とすること
- ③訪問看護の安定的な提供体制整備に向けた業務効率化の推進を図られたい
 - ・看護職員が電話等により本人の病状確認や療養指導等を実施した場合の報酬を算定できるようにすること
 - ・「退院時共同指導加算」の算定要件を緩和し、テレビ電話等を活用して行った場合でも算定を可能とすること
- ④訪問看護情報提供療養費の算定要件の見直しを図られたい
 - ・新型コロナウイルス感染症や大規模災害が発生する中で、市町村と連携し利用者に必要なサービスが安定的に・継続的に提供される体制を構築するため、「災害が発生したとき、又は災害等が発生する恐れがある場合に自ら避難することが困難な者であって、その円滑かつ迅速な避難の確保を図る必要のある者」と訪問看護事業所が判断した場合には、市区町村の求めに応じて、訪問看護情報提要療養費1を算定可能とすること

- ・訪問看護情報提供療養費3について、介護保険の利用者も算定できるようにすること
- ・令和3年度自民党看護問題対策議員連盟

①新型コロナウイルス感染症対応における

- ・衛星材料および個人防護具等の優先供給
- ・訪問看護ステーションの存続に対する支援の充実

②訪問看護師等の早急で大幅な人材確保と業務環境の整備

③地域包括ケアの実現を目指した、訪問看護ステーションの大規模化・多機能化の促進の支援

④医療的ケア児や重症心身障害児などとその家族が、安心して在宅生活を送ることができる仕組みづくりへの支援

⑤在宅ケアにおける事故報告システムの開発

⑥訪問看護におけるICT活用促進への支援

2) アンケートの結果

- ・地域医療介護総合確保基金の活用についてのアンケート
- ・ブロック会議における検討内容

3) 令和2年度研究事業報告

- ・令和2年度老人保健健康増進等事業

①訪問看護事業所の質の確保に向けた事故評価を支援するための研究事業

②訪問看護師による認知症高齢者と家族の支援に関する調査研究事業

③介護職員等による喀痰吸引等の研修テキストの見直し等に関する調査研究事業

- ・令和2年度文部科学省

地域において医療的ケア児に関する看看連携モデルの創出

- ・令和2年度厚生労働省医政局地域計画課事業

在宅医療関連講師人材養成事業 訪問看護分野

4) 訪問看護ステーション連絡協議会への法人化支援について

都道府県訪問看護ステーション連絡協議会が主体となって、地域医療介護総合確保基金を受諾し、事業を展開できるように法人化を推進している。

5) 訪問看護事業所の大規模化の支援について

6) 新型コロナウイルス感染症対策関連

- ・新型コロナワクチン感染症に係るワクチンの訪問看護師等への早期接種に関する要望書
- ・新型コロナワクチン感染症対策の特設ページの開設

7) 出版物の紹介

13:40~15:25

都道府県グループ会議 全国訪問看護事業協会監事 新津ふみ子氏

実践報告：訪問看護ステーション連絡協議会におけるガイドライン普及のための講師育成・活用の取り組み（大阪府） 大阪府訪問看護ステーション協会理事 山本ゆかり氏

大阪府の現状は、訪問看護ステーション数は東京より多く、小規模事業所が6割、新設事業所が増加しているが、事業が継続できない事業所も増加している。そのため、現存する訪問看護ステーションが、健全な運営を維持するために、大阪府全体で取り組みをはじめないといけないと思った。「事業所自己評価ガイドライン」を用いた事業所自己評価を広め、定着を図るために「教育ステーション」事業の一環として活動を計画する。2021年度は新型コロナウイルス感染拡大により教育ステーションの活動計画は大幅に変更している。

2年ぶりに開催された交流会に参加することができた。毎日の業務に追われながらも、また、コロナ禍で大変な中でも、もっと質の高い看護を提供しようと努力している話を聞き、自分たちの佐賀の連絡協議会も、そして自分のステーションも頑張らねばと思った。

以上、報告する。